

【様式①】令和2年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立常磐小学校

校長名

阿谷 亘



市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	校長の経営方針のもと、教頭、主任等は組織の中核としてPDCAサイクルによる学校経営を進める。 「いじめ防止基本方針」をふまえ、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を共有して指導に当たる。	A	職員が問題を一人で抱え込まないようチームで指導し、互いの指導力を高めるよう努めている。職員の指導にばらつきが生じないように指導内容や指導方法を交流し、誰もが同じ指導ができるように取り組んできた。	児童と教師の関係がよく、先生たちがよくがんばっている。働き方改革が叫ばれる中、限られた時間でやりきることは大変なことだと思う。多くの先生がベテランであり、豊富な経験や知識をもって指導にあたっていた。	働き方改革が叫ばれているが、特別支援教育における合理的配慮やプログラミング教育など、今日的課題が山積している。効率性を求めながらも、教育大綱をもとに、学級経営・教科指導・生徒指導の力を高める職員集団を育成する。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	これまでの教育活動を検証しつつコミュニティ・スクールのより効果的な運営・実施を図る。 小中連携のもと、学力向上に向けたカリキュラムマネジメントを確立する。	A	あいさつ運動では、中学校の生徒が小学校の校門に立って児童を出迎え、保護者や自治会の取組に加え、中学校の取組が定着してきた。低学年を中心とした「ドリル学習」に加え、高学年の「みがき学習」を通して、家庭学習の充実を図ってきている。	授業を参観して、とても落ち着いていると思った。よく指導されているため、どの子ども学習姿勢が身に付いている。自ら主体的に学習する子どもたちの姿が素晴らしい。読書の習慣も身に付けさせていきたい。	主体的に対話的な深い学びを実現するために、タブレット等の教育機器を積極的に活用する。多様な考えを類比・対比・因果等の観点でつなぎ、自分自身の考えに変容(広がりや深まり)があることを自覚できる児童に育てていく。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	学校の教育方針や指導法改善に向けた方針について、家庭や地域社会に積極的に情報発信する。 教職員や児童・保護者・学校運営協議会による学校評価を公表し、学校運営の改善に生かす。	A	学校便りや学校ホームページを活用し、地域の「町づくり協議会」を核として積極的な情報発信を行うとともに、学校運営協議会の委員さんに授業を参観していただき、児童の具体的な姿で学校運営の助言を受けている。	家庭内でどのようなことが起きているのか学校ではわかりにくい。子どもがもつ背景をつかむことはとても大切である。学校と地域・家庭が連携して、子どもたちがかかえる課題を少しでも把握できるようにしたい。	常磐小校区は文教地区であり、地域の教育力には素晴らしいものがある反面、仕事に時間をとられ、教育できない家庭もあり、温度差が激しい。コミュニティ・スクールを核としながら今まで以上に地域の教育力を活用できるようにしていきたい。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	教育環境面、財務環境面での市教委への要望を計画的に行い、ICTを積極的に活用する。 財務や納入金の適切な取り扱いがされているか常に確認し、より有効に運用する。	A	安全点検を徹底し、環境面での課題を早期に把握している。対処できるものはすぐに校内で対応し、雨漏り等のそうでないものは市に要望書をあげている。	桜の木の枝が伸び、枯れて落下の危険もあり、伐採の手配をした。トイレが古く汚い。家庭では洋式トイレなのに、学校はほとんどが和式である。	児童の発想も生かして環境を整備していくことにより、自分たちの力で美しい環境を整えていくことの大切さを実感できるようにしていきたい。また、親児の会の蛍光灯掃除のように、保護者や地域住民の力を借りて一層の環境整備に取り組んでいきたい。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	PTAと連携し、通学路の安全を定期的に確認する。また、災害時の引き渡し方法をより現実的なものにする。 「命を守る訓練」「交通安全教室」等で、児童の「自分の命は自分で守る」意識を強化する。	A	PTA地域生活委員と連携し、保護者だけでなく、地域への連絡手段を確立しておく必要がある。	自治会でも近隣の校区と連携しながら防災の活動に取り組んでいる。自分の命は自分で守る。いざというときに備えて、保護者や児童にも主体的に行動できる力を身に付けてもらいたい。	時間の短縮のみに気を配るのではなく、実際に起こりうる様々なパターンに対応した「命を守る訓練」および「引き渡し訓練」を実施していく。これからは学校と家庭・地域住民が連携して、児童の安全を守る。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/tokiwa-e/>